

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2015~2016年度 No.192

1月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：IBC/DBC

那須ワイズメンズクラブ



11月例会(那須街道赤松林植樹) 11月 7日

2015~2016年度 主題
 国際会長：(IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)
 「信念のあるミッション」
 アジア地域会長：(AP) Edward K.W. Ong(シンガポール)
 「愛をもって奉仕をしよう」
 東日本区理事：(RD) 渡辺 隆 (甲府)
 「原点に立って、未来へステップ」
 北東部長：中川 典幸 (仙台)
 「今と原点を融合して未来へ」ー楽しく改革・笑って行動ー

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮
 河野 順子
 書記：荒井 浩元
 会計：鈴木 保江
 担当主事：荒井 浩元
 ブリテン：田村・村田

12月例会データー (出席率：83%)
 在籍者 6名
 例会出席者 5名 メネット 3名
 コメット 1名 ゲスト 15名
 メイクアップ 0名

今月の聖句
 「朝、種をまけ、夜にも手を休めるな。実を結ぶのはあれかこれかそれとも両方なのか、分からないのだから。」

コヘレトの言葉 11:6

東京目黒クラブ 那須クラブ
 1月 Happy Birthday
 1/1 根本幸子メン 1/15 田村暁美メネット
 1/8 福島 正メン

田村 修也

東京YMCA山中湖センターの植物たち

2003年—2004年の北東部長は、那須ワイズの故一木慎司メンでした。私は書記を仰せつかって、1年間歩みを共にさせて頂きました。小山理事をはじめ多くの来賓の方々にお出で頂き、アジア学院を会場に北東部会を開きました。次いで、9月26日から28日まで東京YMCA山中湖センターでユースボランティアリーダーズフォーラムが開催されました。当時は当番の部会長が実行委員長を務めていました。このシステムの最後の年度だったかもしれません。那須ワイズからは一木部長と私、YMCAからは、リンダ、キョロチャン、プラム、タモリの4名のリーダーが参加しました。リンダとプラムは直行し、4名は一木部長の愛車のランクルに乗ってゆきました。初日は名峰富士山の雄姿は生憎の天気でお目にかかれませんでした。駐車場の入口には大きなミズナラの木があって、大きな実を周囲に敷き詰めていました。

一木北東部長は委員長として、開会式の挨拶をはじめ全プログラムの進行に気を配っていました。今ではごく当たり前になっていますが、当時としては最先端、いつものように、デジカメとパソコンを駆使して、参加者一人一人の顔写真を撮り、スナップを撮り、閉会までに写真の記録を仕上げてしまいました。この年の報告書は参加者の感想文は本人の写真が付き、各プログラムの実施状況は一目で分かるようにスナップ写真が載っています。一木実行委員長ならではの第16回ユースリーダーズフォーラム報告書でした。

さて、私は翌日の27日には晴天になりましたので、センターの内外を巡り歩いて、様々な植物との出会いを楽しませてもらいました。その時の野帳が出てきましたので、紛失する前にブリテンに載せておくことにしました。以下はその時散策しながら出会った樹木や山草たちです。北関東とはまた違った植生にも出会いました。

樹木類 マユミ、ウワミズザクラ、コクサギ、コブシ、ブナ、ウコギ、モミ、ミズナラ、アカシデ、ニシキギ、ミズキ、フジ、ニシキウツギ、ニレ、カラマツ、ケヤキ、キハダ、ヤマウルシ、ミツデウツギ、ムラサキシキブ、エゴノキ、ツリバナ、サワラ、ヤマモミジ、ウリカエデ、ニワトコ、ドロノキ、クワノキ、ヒメコマツ、ヒノキ、エンコウカエデ、アズキナアシ、スギ、ヤドリギ、シ

ラカンバ、ズミ、クリノキ、コゴメウツギ、サンショウ、アケビ、アカマツ、ヤナギ、オオシマザクラ、ヤマブキ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ、イタチハギ、ヤマハンノキ、ウツギ、ソメイヨシノ、ヤマツツジ、ドウダンツツジ、レンゲツツジ、ユキヤナギ、ハナズホウ、ミツバツツジシキミ、エンジュ、ヤマブドウ、ノイバラ。アジサイ。

草本類 トリマブト、イタドリ、オオバコ、クロヒナスゲ、ウバユリ、タバコソウ、マムシグサ、シシウド、ヘクソカズラ、フキ、ハマエンドウ、アシタバ、アメリカセンダングサ、ミゾソバ、オオマツヨイグサ、ツユクサ、ツリフネソウ、ヨモギ、ノギク、ススキ、アザミ、リュウノヒゲ、シオデ、オオタデ、ユキザサ、ゲンノショウコウ、ノカンゾウ、アカソ、ノブドウ、ノブキ、ヌスビトハギ、スズラン、フユノハナワラビ、ヤマユリ、ダイコンソウ、キンミズヒキ、イヌゴマ、タケニグサ、スイバ、チジミザサ、ミズナ、フジテンニンソウ。

以上樹木類61種、草本類43種。まだまだ見落としがあると思いますが、山中湖センターの植物相はとても豊かなものでした。野鳥博士や、昆虫博士がご覧になれば、さらに豊かな自然の満喫させて頂けることでしょう。

12月例会（クリスマス例会）

日時：12月18日（金）午後6時～午後8時

場所：日本基督教団西那須野教会

2F礼拝堂・1Fホール

参加者：田村会長、村田副会長、河野副会長、原田、荒井の各メン、メネット：田村、村田、原田、コメット：田村、ゲスト：潘炯旭牧師ご夫妻・大下正人牧師（西那須野教会）、養徳園9名、那須YMCA会員・教会関係者4名、アジア学院関係者2名、那須YMCAユースリーダー：しゅうまい、ばばちゃん、はしゅ、キタロー、すっちー、じゅりあん、あゆ、バンビ、いもに、ふっか、かとう、もっちゃん、みい、さっちゃん、ワラビ、けーも、ポチ、さぶちゃん（18名） 合計：43名

12月18日（金）午後6時より、日本基督教団西那須野教会にてクリスマス例会が開催されました。今年のクリスマス例会は、ここ数年では最も多い参加者数で、盛況の内に終えることができました。プログラムは、田村会長の開会点鐘、聖書朗読・祈禱、ワイズソング、会長挨拶で始まり、第1部キャンドルサービスは、村田副会長の司会

のもと進行され、説教は、西那須野教会潘炯旭牧師でクリスマスの意義を参加する皆様に伝えられました。第2部の食事会・祝会では、河野副会長の司会のもと、美味しいカレーとその他のオードブル、デザートをいただきながらの参加者の紹介をしたり、クリスマスソングを歌ったりするなど楽しい時間を過ごすことができました。養徳園の皆さんは、ワイズメンズクラブからクリスマスプレゼントを貰いました。多くの皆さんから持ち寄りの一品のごちそうを頂きながら、大変にぎやかなひと時であり、時間が経つのを忘れるほど実り多き時間となりました。

尚、4,460円をもちぎYMCAの国際協力募金に献金をいたしました。

12月役員会報告

日時：12月4日(金) 18:30~

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、荒井書記、田村メネット

協議事項

1. 12月例会(クリスマス例会)について
12月18日(金) 18:00開会。プログラムについての確認。西那須野教会にて開催。メッセージは潘牧師に依頼する。会費1,000円。一品持ち寄り。ゲストは、養徳園の子供たち、アジア学院、西那須野教会員。ギデオン協会。カレーライスは、Yスタッフとユースリーダーに依頼。お米4升は田村会長。ジャガイモ・玉ねぎ、漬け物は村田副会長。田村コメントにカレー以外の物を依頼する。養徳園の子供たちのプレゼントは村田メネットに依頼。

2. 1月例会について

1月22日(金)午後6:00~。プレッシングで開催。会費は3,500円程度。場所の確保は田村メネットに一任。内容は新年の抱負を語る。

3. 1役員会について

1月15日(金)午後6時30分~、ココス西那須野乃木店。

5. ブリテンの内容について

西那須野幼稚園、エルム福祉会で掲載をする。巻頭言は、鈴木。

6. その他

・アジア学院の卒業式について 12月12日(土)午後1時30分開催。

・2月例会の予定、2月26日(金)に地域公開

講演会(認知症の予防と対策)。

・3月例会の予定、3月25日(金)ユースリーダーによる報告会。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(33回)

田村修也

前回三島農場の所で、11月には島田新次他14名を大字赤田に入植させたことを記しました。赤田には赤田山という標高310.9mの山がありまして、当時の入植者は赤田山組と呼ばれていました。後に宮崎県の母智丘神社の神鏡を複製して奉納しました。神社の扁額は太政大臣の三条実美が書いています。また雨期には水が溜まる湿地があり、後に開拓が進んで墓沼用水からの水も得て沼化されて、赤田沼と呼ばれていました。冬期には一面に氷が張り、唯一スケートの楽しめるところでした。約2haの人口の沼でした。昭和40年代には宅地化されてしまいました。

私が高校を卒業して浪人時代に、高校の怖い先輩に誘われて西那須野教会に導かれ、福本牧師が創設したBS那須14団副長補としてお役目を頂いて活動しておりました。その設立時の隊員の中に島田工君がおりました。自宅は大字赤田で赤田山のすぐ南東部。三島農場の中核道路で三島通通路の造った塩原新道(現在の塩原街道)に面しており、お父さんは獣医で当時大きなオートバイに乗って仕事をしておりました。島田工君は、私がその年の11月16日香川豊彦特別伝道集会の翌日の主日礼拝で受洗した時に礼拝に出たのでしよう。彼は香川豊彦に惹かれて、私が文庫本で持っていた「死線を越えて」上下2冊を持って行って読んでいました。結局は戻りませんでした。島田君は赤田組のリーダー島田新次の4代目だったにちがいないと今では確信しています。時を取り戻すことができたなら、工君のお父さんをお願いして「島田文書」を読ませてもらえたことと思います。今は廃屋も取り除かれ、石堀で囲まれた更地があるのみです。消息も知れません。

次に、同時代の他の開拓事業にも触れておきたいと思います。先ず私の家からほど近い郡司開墾についてご紹介いたします。

その頃、槻沢村(現在アジア学院の設立されている地域)の郡司忠平は南郷屋村の君島安三郎、磯金平たちと相談して、槻沢、高柳付近の13人の賛同者を得て(墓沼用水沿いに旧村が点在)肇耕社隣接の土地で南郷屋付近の原野50町7反歩を拝借して、開拓の鋤を入れました。社長には

郡司さん、幹事には君島さん、会計は磯さんが担当し、社長の名を取って郡司開墾と呼ばれていました。乃木将軍の那須農場（現在の乃木神社）北西部に隣接し、近くには大田原藩の御用堀である墓沼用水が流れています。現在、開墾の中心地であったと思われる所には新南郷屋の公民館があり、隣接する祠の側面には、入植者に開墾地が譲渡された後、昭和8年（1933）を記念して建立された開墾碑が建っています。また公民館と墓沼用水の間には、大きな彼岸桜を囲むように雑木林が残されており、桜の花の咲くころは、多くの人々の目を楽しませてくれます。開拓成業の喜びと感謝のが、今も受け継がれています。なお郡司開墾の土地払い下げ状況は以下の通りです。

畑（成功分）	21町9反8畝20歩
宅地（成功分）	2町2反0畝11歩
防風林	18町5反1畝28歩
私道	4反3畝17歩
計（払下げ面積）	43町1反4畝16歩
未墾地、ほか	7町5反6畝08歩
合計	50町7反0畝24歩

この土地使用状況をみますと、全体の内に占める防風林の多さが目立ちます。主目的の畑のほぼ90%です。いかに風が強かったかがわかります。

（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長 福本光夫

「子ども達の未来に、

受刑者は2年分の年収を捧げた」

昨年もしらゆりで紹介しましたが、現在、刑務所教諭師（きょうかいし）として、年間10回位キリスト教の話を黒羽刑務所の希望する受刑者の方にする機会を与えられています。2010年のある教諭で、「幼稚園の理事会は5億円の借金をして、園舎を建築するを決断しました。県、市からは1円の補助もありません。全額の借り入れで、私は不安もあります。20年かかって返すのですから生きてないかもしれません。返せなかったら連帯保証人の私も皆さんと一緒に座ることになります」という話をした。園舎完成後、3.11の大震災があったが、誰のけがもなく、屋根の放射能も浸透せずに流れ、園庭の汚染も最小限で済んだ。そんな時、一通の現金封書が送られてきた。ある受刑者の方からであった。手紙の追伸には「心ばかりを少し同封させていただきました」。そして、「若者を

あゆむべき道のはじめに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう（箴言 22-6）」、「子供たちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである（マルコによる福音書 10-14）」という2編の聖書のことばが添えられていた。中には1万円札が2枚あった。この2万円はとてもすごい金額です。当時、刑務所での作業の時間給は5円から始まりました。この金額は、実に2年間分の賃金に当たります。出所後の自立には、絶対必要な虎の子であるお金を子ども達の今と未来に捧げてくれた。とても勇気づけられている。クリスマスになるとこのことを思い起こし、感謝を持って新たな1年のスタートを切ります。

今後の予定

・1月役員会

日時：1月15日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：1月例会、2月例会、3月予定の確認、ブリテンの発行等。

・1月例会（新年例会）

日時：1月22日（金）午後6時～

場所：ブレッシング（西那須野）

会費：3,500円程度

内容：新年の抱負を語る

・2月役員会

2月5日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：2月例会、3月予定の確認、ブリテンの発行等。

・2月例会（公開講演会）

日時：2月26日（金）午後6時～

場所：西那須野教会（予定）

講師：河野順子 栃木県看護協会会長

演題：認知症の予防と対策

社会福祉法人 エルム福祉会の歩み

「たじまの杜」と西那須野教会

2012年春、那須塩原市二区町に高齢者福祉施設「たじまの杜」が開設されましたが、これには西那須野教会が深くかかわっています。189

0（明治23）年に、群馬県島村から那須野が原開墾の志を抱いてキリスト教徒の田嶋弥三郎一家が西那須野の地に移住し、後に続いた移住者たちとの集会がもとになって、今から120年まえ西那須野教会が産まれたのでした。

数年前、田嶋家の現在の当主、公一・明子夫妻から「先代の遺言にしたがって田嶋家本宅の土地建物を教会に寄付したい」との申し出がありました。教会の中で、特に高齢者のための福祉事業に活用したいという意見が熱心に語られましたが、実際問題として、教会がそうして事業を営むのは難しいこともわかりました。幸いなことに、教会の信徒だった故楡井一俊氏が設立した社会福祉法人「エルム福祉会」が、楡井氏の長女でやはり教会員の川上聖子さんとその夫健次さんに引き継がれており、その川上夫妻が田嶋家の寄付を受けて念願の施設を開設する運びとなったのです。

神様によって開かれた「たじまの杜」

施設長 川上聖子

2010（平成22）年の秋ごろ、田嶋公一・明子夫妻より、エルム福祉会へ土地建物の寄付の申し入れがありました。その時、私は教会の役員であったので、それまでの経緯も、教会員の皆様が高齢者のための福祉事業への期待を抱かれていたことも承知しておりました。エルム福祉会としてもトータルサポートとしても高齢者事業も視野に入れていた時でもあり、行政にもいろいろな情報をいただきながら前向きに検討させていただくことにいたしました。その頃は、2013年ごろ事業がスタートできるよう準備していければと思っていました。

しかし、忘れもしません。2011年5月19日、高齢者事業に関して行政に情報をいただきに伺ったところ、「地域密着型共同生活介護事業（認知症グループホーム）と小規模多機能型居宅介護事業（ディサービス・訪問・ショートステイの併設事業）の公募を行っているとのこと。しかしながら、2011年度末までに建築完了することが条件でした。帰りの車の中では、とても無理とあきらめていました。統括施設長である夫が、何か所か今までの設計者に電話したところ、とてもその期間では無理だと言われました。しかし、一枚の設計事務所の名刺が目にとまり、電話したところ、すぐに相談に乗ってくださり「きっとできます！」といわれました。水曜日の午前中の祈禱会で、毎週のように祈っていただきました。私も「御心ならば道が開かれますように。御心でないならば閉ざされますように。」と毎日祈っていま

した。そして一步踏み出すことにし、公募資料を作成し、プレゼンテーションに参加し、決定をいただいたのが7月末でした。その後急いで求人を行い、設計の打ち合わせを何度も持ち、高齢者の福祉事業の施設長になるためのたくさんの研修に参加しました。建築や開発にかかわる申請に関しても、時間がかかり、無理かもしれないという事が何度もありましたが、その度に神様から知恵や方法が与えられたと思っています。殊に、この年は東日本大震災があったため、建築関係の人手が被災地に取られて、入札失敗の事業所が多かったようですが、当法人の入札は一発落札でした。そして、名残惜しいことでしたが、11月中に旧田嶋邸を解体し、敷地を広げるため林を伐採し、進入路を作りました。その後12月2日に定礎式が行われ、工期については4か月未満で建設が完了したことは、奇跡としか思えませんでした。設計者も建築会社の方も、本当に一生懸命仕事をしてくださいました。並行して、新規採用職員を50名近くの応募者の中から選んでいくことも大変でした。今思うと、神様の力が無かったら、神様の導きが無かったら、教会員の皆様の祈りが無かったら、このようなスピードで「たじまの杜」は建てられなかったと確信しております。ですから、私たちエルム福祉会が神様に託されたミッションをしっかりと祈りを持って遂行していく事に全力を注いでいきたいと思っています。竣工当初は庭の桜が満開に咲き、続いてつつじが咲き誇り、桜の木の根元で生まれた子狐が芝生でじゃれたり、野生の雉のつがいが現れたり、と、神様の作られた「たじまの杜」ならではの自然の中で過ごせることに誇りを持っています。

これから、いろいろなことがあると思いますが、神様を信じて、神様からの知恵をいただき、すべてを神様にゆだねていきたいと思っています。皆様、今後とも「たじまの杜」の働きとエルム福祉会の働きのために祈って下さるようお願いいたします。

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」（「コヘレトの言葉」3章1節）

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると、主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道を、わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている。」（「イザヤ書」55章8-9節）

2012年9月西那須野教会報「からしだね」より

YMCA 報告

【とちぎ YMCA スキーキャンプが無事に終了いたしました！】



12月下旬にありました、とちぎYMCAウィンタープログラム、スキーキャンプ（計2本）が予定通り実施され、無事に終了いたしました。当初は暖冬の影響

で雪不足に心配されていましたが、キャンプ前に雪が降り、スキーレッスンには影響がないほど無事にゲレンデがオープンされました。また、1・2月にある日帰りスキープログラムに向けて準備が進められています。子どもたちはプログラム中、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。

那須YMCAでは、大学生のユースボランティアリーダー2名がスキーキャンプに参加しており、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に過ごしました。また、ウィンタープログラムならではのスキープログラムが目白押しですが、リーダーたちもスキー実技トレーニングに参加し、スキー指導技術向上だけではなく、リーダーとしての成長を育んでいきました。この度は、とちぎYMCAウィンタープログラムにご協力頂きありがとうございます。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【第6回日中韓YMCA平和フォーラムに参加しました！】

12/19（土）～23（水）の5日間、中国の南京市で開催されました第6回日中韓YMCA平和フォーラムにとちぎYMCAから塩澤総主事と荒井が出席してきました。このフォーラムは、3カ国のYMCAのユース及びシニアが一箇所に集い、共に学び、交流を通して友情を深め、未来に向けて何ができるのかを語り合ったり、日中韓のYMCAがこれまで育んできた交流のバトンを、若い世代に引き継ぎ、連帯の絆をより強いものにしていったりするなど、ねらいがあります。日本チームは、ユース・シニア合わせて約30名が参加し、3カ国をあわせて約70名が参加しました。開催場所である南京市では、過去の歴史の中で、「南京大虐殺」という悲しい歴史があります。今回は、この「南京大虐殺」という歴史を切り口に平和について考えていきました。基調講演の南京

大学の歴史学・平和学の劉（リュウ）教授より、様々な壁を越えて、暴力によらない平和解決の実現にYMCAへの期待を寄せられ「平和がすべてではない。しかし平和がなければ全てを失う」と締めくくられました。スタッフの荒井は、日本ユースチームのリーダー及び中国語の通訳という役割を担い、また、フォーラムの開会礼拝（クリスマス礼拝）では、中国語司会を担当いたしました。

このフォーラムに参加し、平和を願う気持ちはみんな同じだということに気が付きました。人には様々な違いがありますが、大切なのは違いじゃなくて共通点だと思います。共通点を共に共有されたとき、意外と簡単に平和は生まれるのではないかと思います。今回のフォーラムに参加する機会を与えて頂き、サポートして下さった全ての方々に感謝いたします。



【とちぎYMCA・那須YMCAの1月の予定】

- ・1/8（金）より那須YMCAプログラム開始
- ・1/9（土） サタデークラブ（クラフト）
@西那須野幼稚園
- ・1/16（土） サタデークラブ（スノードーム作り） @西那須野幼稚園
- ・1/25（月）～26（火） 全国YMCA国際事業担当者会・国際協力委員会（荒井が、同盟国際協力委員として出席） @在日韓国YMCA
- ・1/30（土） サタデークラブ（スノードーム作り） @西那須野幼稚園
- ・1/30（土） ワンデイスキー（年中児～小6 初心者・初級者対象） @エーデルワイススキーリゾート